



三日月は そろぞ寒さは 冴え返る (小林一茶)

～三日月の夜は空が澄みわたってきたが、寒さがぶり返してきた～

2月に入り、暦の上では春になっていますが、まだまだ寒さが続きそうです。風邪などひかないように健康には気をつけましょう。特に受験生、寒さに負けず頑張ろう。

掃除ができる子に育てましょう

仏教の教えに「一掃除 二信心」という言葉があります。なによりもまず、「掃除をすることが大事である」という教えです。

皆さんも、小学校・中学校・高校と学校の掃除をされたことでしょうか。皆さんのなかには、先生から「〇〇さんは、よく掃除をするね」と褒められてうれしかったという思い出、逆に叱られてちょっぴり嫌な思い出がある人もおられるのではないのでしょうか。

学校では、子どもたちが掃除をします。これが日本では当たり前なのですが、他の国では子どもがやらない国も多いのです。日本の学校では、掃除をさせることを大切な教育活動の一つととらえています。

教室やトイレを自分たちできれいにするということはとても大切なことです。きれいな教室で勉強をするのと、ゴミがたくさん落ちている中で勉強をするのでは学習効果が違ってくるのは当たり前のことです。また、よく掃除をする子どもは、あいさつをよくする子どもにもなるようです。それは掃除をすることにより心が育つからなのでしょう。

「身の回りを整える」と「掃除をする」は同じことです。以前、「青少年育成センターだより第37号」で、小学校に入学する前に「身の回りを整えることができる子どもに育てましょう」ということを書きました。自分で使ったおもちゃは入っていた箱に入れ、出した本は本棚に返す、このことが自分でできるかできないかは成長するにしたがって大きな差が出てきます。

身の回りを整えることができ、掃除を一生懸命に行う子どもに育てる方法は、小さいときに、親と一緒に掃除をしたり、整理整頓をしたりすることです。そして、終わった後に「見てごらん。きれいになって、気持ちがよくなったね」と声をかけるのです。このことにより、子どもはきれいになっていること、整理整頓されていることの気持ちよさに気づきます。そのことに気づくことができれば、親が手伝ってやらなくても自分できちんとできるようになるのです。掃除ができる子に、そして整理整頓ができる子に育てることは親にとって大切なしつけの一つといえます。

最後に、「日本を美しくする会」の鍵山秀三郎さんの言葉を紹介しましょう。

お釈迦様が説かれた「掃除の五徳」というのがあります。

第一番は、掃除をしている人の身も心も清められる。

二番目は、掃除をしている人の姿を見ている人の身も心も清められる。

三番目は、端正の業を終える、つまりすべてのものが整ってくる。

四番目は、すべてのものが喜んでいく。確かにきょうも汗びっしょりになって公園で掃除をしていましたら、公園に来る人が口々に、「いつもありがとうございます」とお礼を言って行かれました。掃除をすることですべてを喜ばせることができるんです。

そして五番目は、これはまだ経験していませんから分かりませんが、天上、つまり天国で幸せになれると言います。こういうことをお釈迦様が2千5百年も前におっしゃっているんです。ですから私もそれを信じてやっております。